

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401335		
法人名	株式会社 メガ・フレア		
事業所名	グループホーム ふれあ		
所在地	札幌市手稲区手稲本町2条2丁目4-1 1		
自己評価作成日	平成23年6月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々の個性が活かされるように心掛けており、ケアを受ける側という受身の姿勢ではなく、積極的にご自分の思いで毎日を過ごしています。ご家族との交流も多く「会いたい時にいつでも会える」環境です。看取りケアにも取り組んでおり24時間体制で医療機関と連携しご本人・ご家族の希望を優先した体制で医師との連携を図っています。安心して穏やかに暮らせる場所であり続けられるよう、今後も前向きな姿勢で取り組んで参ります。職員のチームワークも良好で入居者本意を第一に、柔軟な対応を心掛けて日々取り組んでいます。職員の明るい笑顔も特徴的です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401335&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401335&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年6月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR手稲駅南口から徒歩5分以内位置し、2階建て建物の2階にある1ユニットのホームです。周辺には手稲神社、公園、商店やコンビニ、また、駅北口周辺には区役所、大型スーパーがあり、利便性の良い場所です。職員は利用者の個性や得意とする、その人らしさを活かすケアに努め、ゲーム、合唱、洋裁、手芸、石鹸作りなどを活動として取り入れ、自由に参加し活性化に繋がっています。利用者からは漬物作りや正月、盆、十五夜などには、日本の習慣を教わることも多く、積極的に自分らしく毎日を過ごせるように支えています。地域との関係性は、利用者と一緒に手稲神社祭、花壇整備、清掃活動、資源活動に参加し、夏祭りには浴衣姿で子供盆踊りに交じって踊るなど、地域に溶け込んだ生活をしています。近年、近くの公園には、車いす用のトイレが設置されています。管理者と職員は、コミュニケーションを大切に日々研鑽し、信頼関係の中で、利用者への更なるサービスの向上に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを意識した理念を新たに加えました。来訪者や入居者、職員がいつでも目にする事が出来るよう掲示しています。	理念とケアの目標を職員間で話し合い、ホームの目につきやすい場所に掲示しています。職員は各自のネームの裏に書き込み、共有し、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長が町内会役員をしており、清掃活動や資源ゴミ回収に協力しています。また入居者・職員も街路樹の花植え等の活動に参加したり、町内の夏祭りには毎年参加し交流をしています。	利用者は地域の花壇作りに参加したり、地域の夏祭りには、浴衣を着て子供たちと一緒に盆踊りを楽しみ、神社祭には、子供神輿を見ながら子供たちと触れ合い、自然に地域に溶け込んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に協力を頂き、役員会等で町内会開催の行事に参加出来るように働きかけ、また実際に路上花壇の手入れ、盆踊り等積極的に参加させて頂いています。町内会も認知症の方への対応等で事前に準備をして頂き対応して貰っています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで健康についてや高齢者の医療について医師との意見交換の機会を設けたり、外部評価の公表について話し合い役員と意見交換を行なっている。震災に備えた題材で消防署員のアドバイスを基にご家族や地域との緊急時の連絡網の作成も行なった。	運営推進会議は定期的開催され、参加メンバーも増えつつあります。特に家族の参加が多く、玄関の施錠や防災対策については、建設的な意見交換が行われています。また、地域からの避難訓練の参加、協力については、町内会役員と検討中です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて不明な点や質問がある時には出来るだけ直接窓口へ出向き、担当者とは相談や手続きをできるようにしています。	区役所へは、職員が出向いて担当者に相談したり、電話連絡で連携を図っています。保護課の職員の来訪時には、状況を報告しながら協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し、職員間での検討会で禁止の具体的な行為について周知の場を設けている。また、地域運営推進会議で玄関の施錠について数回に渡り検討を重ね、他ホームの見学を行いながら改善に向けた取り組みと途中経過・現状の報告をその都度している。	身体拘束防止に関しては、外部研修に参加し、職員間で学習会を行い、検討のうえ周知徹底しています。玄関の施錠の弊害や開放するリスクについて、家族と話し合いを重ね、他ホームの見学を行い、エレベーター手前の戸を柵に切り替えることで閉塞感の解消を図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待防止についての外部研修に参加し虐待が起こりうる状況や環境について、スタッフ全員で学習会を開き周知している。業務配分のバランスが崩れ過密化する事がきっかけの1つと考え、入所者様の状況や容態変化に合わせ、その都度業務配分を変更している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第三者機関と意見箱を設置している方ではありますが、個々の必要性について話し合ったケースはなく、活用できるような支援にまで結びついた事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明は行なっています。今後も解りやすさの工夫を重ねていきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関と意見箱を設置している。直接口頭で意見を頂く事もあるため、その都度返答し対応を改善したり意見を取り入れるようにしている。その他運営推進会議の場で緊急連絡網の取り扱い訓練の要望を頂き準備を進めている。また火災避難訓練の実施状況の確認があった為、実際にご家族が参加できる形で訓練を行いました。	運営推進会議には家族の参加も多く、意見や要望を聞く機会があります。管理者は、家族の来訪時には話しやすい場面作りに努め、その都度対応し、改善に努めています。遠方の家族には、毎月の「お便り」の発送時に手紙を添えて、意見を聴取するよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長による年2回の個人面談の機会があり、そこで意見や提案をしている。	管理者は随時職員の意見、アイデア、要望を聞き、その場で改善できるものは取り入れています。また、運営や大切な決定事項に関しては、ホーム長に提案や意見を伝え、判断を仰いでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は必ずチェックを行い、また賃金の水準、手当等は同業者の動向をチェックして常に水準以上になるように努めています。また年に2回以上の個人面接を行い要望等をヒアリングしています。ヒアリングに基づき研修等を考慮するように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会による研修案内を中心に外部の研修を積極的に受けられるように取り組んでいます。外部研修を受けた職員を中心に知識の共用の為に提出レポートを許に内部での研修を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間で検討し他グループホームと交流会を開催した。今後は回数を重ねスタッフ間で気軽に意見交換が出来るネットワークを広めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。実際に生活を始めてからも自然な流れで居場所作りが出来るよう、ご家族からも意見を頂き出来る事と出来ない事の見極めをするよう心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、時間の経過と共にご家族としても新たな不安や、様々な発見がありますのでその都度こちらから声をかけ要望の聞き取りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先したいと考えている事柄をしっかり聞き取り、緊急度や必要度に合せた提案をしている。要介護者の方の情報が見えなかったり、認定調査を受けていないまま入居希望される方も多いため、入居対象となる項目や必要な手続きを説明したり、相談窓口への情報提供を依頼があればさせて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験豊富な人生の先輩として、スタッフ全員が教わる姿勢を持ち相互に支え合う関係を心掛けている。入居者が主役になれる機会を意識し、得意としていた事を指導役として立って頂き新たな学びの場に活用している。例えば石鹸作りや漬物作り、お正月やお盆・十五夜の慣わし等。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちらから気軽に声をかけホームの催し物に参加して頂ける工夫や、お便り/手紙での近況報告を通じてまずは面会の機会を増やしてもらえよう努めています。ケアをする上で課題となっている点等もご家族に相談し一緒に考える機会を持つようにして、積極的に参加して頂ける事を意識しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援で時々、馴染みのあった方（親戚や知人）が来訪され一緒に時間を過ごしたり、ご本人が大切だと思われているご家族と定期的に面談が出来る。季節の行事では一緒に会食する機会を設けており、親しい人達と食事をしながら過ごせる時間を持っている。	利用者は毎年初詣に行ったり、馴染みの花屋で仏花を買い求め、友人にホームの行事に参加して頂き食事を共にしたり、遠方の家族と一緒に食事をする等、これまで大切にしてきた場所や親しい人との関係性を継続できるよう、家族の協力を得ながら支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などを考えお互いの存在が安心に繋がる事を意識し見守るようにしています。上手くコミュニケーションを図れない方でもスタッフが介入し関わりを持つ事で関係が途切れないよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された方にはお見舞いに行く事もあります。退居後、ご家族だけでホームを訪れてくれる事も今までにあります。今後もその様な状況になった際は、必要に応じてフォローをしていきたい。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでもご本人の思いを優先したケアにスタッフ全員で取り組んでいます。困難な場合でも他の選択肢を提案しご本人に決定して頂きます。	職員は、利用者一人ひとりに寄り添うケアを心掛け、表情や仕草、行動などで理解し、困難時には、他の選択肢を提案して利用者に決定して頂いています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ自宅で使い慣れた物を持参して頂き、自宅の環境に近い暮らしを提案しています。介護サービスを利用していた方については利用状況や、暮らし方の特徴も踏まえ関係者から聞き取りをしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人生活のペースが違う為、毎日の体調把握に努め食事時間をずらしたり休息出来るよう対応しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で検討会を開きご家族にも必ず意見を求めている。他にも主治医、歯科医、作業療法士から必要に応じ意見を聞き、本人の希望や目標も確認しながら全員で取り組めるように意識している。今後は更に工夫を重ね、よりプランを中心としたケアの統一をしていきたい。	利用者がより良く暮らすために、利用者や家族、かかりつけ医、歯科医、マッサージの先生からも意見を聞き、職員全員で検討し、介護計画に取り組んでいます。担当職員が、その都度気づいた時にモニタリングを行い、プラン作成に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にモニタリング表を添付し、気づきや結果をその都度記載し、全員で共有出来る様にしています。もう少し有効に活用出来るよう、担当者会議の場で更に多くの意見や別の視点を積極的に聞き取りしていきたい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一時的に体調不良の方にケアが多く必要な場合は、臨時的シフト変更をしスタッフの体制を調整する場合があります。業務のバランスや他の入居者様への負担を考え状況に応じて全員で支えて行く体制をとっています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の文化祭へ出掛けたり町内の盆踊りで交流する機会を持っている。グループホーム同士の交流会を行なう機会もあったが、地域資源を活用した支援という点ではもう少し情報を収集し活用できるか検討していても良いと感じる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を汲んだ診察が受けられるよう主治医へ協力を求めています。必要に応じて他の医療機関の紹介をして頂いたり、急な臨時往診も素早く対応して頂き、安心と納得を得られていると思います。	利用者と家族の希望で、かかりつけ医が協力医になっており、月二回の往診で対応しています。他科受診の必要時には紹介して頂いています。歯科医は週1回の往診であり、訪問看護による週1回の健康管理により、かかりつけ医との連携もスムーズに行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際に1人ずつの体調について看護師と確認し、普段の生活の様子や気づきを報告している。必要に応じて主治医への報告や診療の調整をして頂き、細かな支援が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本情報を手渡し、直接病院看護師と注意点やケアの工夫に関して情報交換している。入院期間についてもその都度確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族・スタッフと本人の体調の変化に対応し、方針と意向について協議と確認をし、事業所の対応についても説明をしている。別の訪問看護ステーションにも協力を頂き、医療の面で支えて頂いた事もありました。	重度化や終末期に向けた研修も受け、職員間で研鑽しています。利用者の状況に応じて、本人、家族、関係者と協議し、ホームの対応を説明しながら、共有を図っています。看取りも経験しています。	ホームでの生活が安心して送られるよう、重度化や終末期の具体的な考え方について、全ての利用者、家族、職員が、共有することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催された防災をテーマにした救命講習会に参加し、AEDの取り扱いやケガの応急手当について学習し会議の場で周知・報告をしている。その他転倒事故の際の対応が統一出来るよう、その方法について周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご家族や地域の方が参加した避難訓練を実施している。地震や水害を想定した訓練は出来ておらず、より積極的に地域の方々との協力を得て避難方法について実践を積んでいきたい。	運営推進会議終了後、消防署の指導の下、昼夜を想定した避難訓練が年2回実施されています。近隣住民の方々との参加協力については、町内会役員と検討中です。災害発生時に備えて食料（缶詰類）、飲料水なども備蓄され、毛布も準備されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使いますが、ご本人が距離を感じないよう心地良いと感じる対応を心掛けています。排泄状況や日々の暮らし振り等個人を特定する会話はご本人の目の前や公の場で話さないよう配慮しています。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に心がけています。	利用者が、夜間使用するポータブルトイレや日用品が、居室の目に触れ易い場所に配置されています。夜間使用も考慮して、配置や布を掛ける等の工夫を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の表現方法の特徴や、表情の変化等を汲み取り質問の仕方を変えたり、簡単な言葉に変えたりして自己決定できるよう意識に関わっています。今後スタッフのレベルが更に向上し、統一できるよう取り組んでいきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごし易い生活リズムを優先し、日によって1人1人違う対応をしています。スタッフの都合や決まり事を優先しないケアという点では改善の余地がある。スタッフ全員で同じ支援が出来るよう、実践の場で教育に取り組んでいきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床と共に整髪や整容が出来るよう、出来ない方への支援もしている。今後は更にきめ細かな支援に心掛けていきたい。お化粧品やマニキュアをこちらでお手伝いして楽しんでいる方もおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けが出来る方、盛り付けが得意な方、その方の得意な作業を中心に毎食スタッフと一緒にこなしています。後片付けも洗う方や食器を拭く方と分担し、手際の良さを感じるようになりました。	食事は、利用者の好みや希望を取り入れたメニューを考え、食材は、近隣の商店から届けて頂いています。下ごしらえ、調理や味付け、後片付けなどは、職員と一緒に、職員と談笑しながら、ゆっくりと食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分チェックをして栄養状態を把握している。その方の生活リズムで皆さんと同じ時間に食事を摂らない方には時間をずらして提供したり、水分補給が難しい方には好みの物を用意したり果物を多く提供して栄養・水分の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行なう方は1日2回の方もいますが、出来ない方にはこちらで付き添い、もしくは手伝い義歯の洗浄や口腔ケアを行なっている。週1回訪問歯科を利用している為、そこで必要なアドバイスを頂きその方の口腔状態に応じた支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している方は現在おらず、全員トイレで排泄を行なっている。	職員は、トイレでの排泄に力を入れ、現在はおむつの利用者はおりません。排便も薬に頼らない支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の様々な事に影響を及ぼすと考え、排泄チェックをしながら果物を多く摂るようにしたり、十分な水分補給とストレッチ体操を毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴を楽しんで頂けるよう、1人の時間を長く設け主に午後の時間を利用して皆さんにまんべんなく入って頂けるようにしている。急な依頼がある場合は入る順番を変えたり、時間をずらして可能な限り対応している。	入浴は、週2回を目処に入浴剤などを入れて、ゆっくり楽しんで頂いています。入浴を拒む場合には、無理強いすることなく、ドライシャンプー、清拭、足浴などの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンを把握し1人づつに合った支援をしている。夜間寝付きが悪く睡眠が不足している日には起床時間を遅らせたり、日中の活動や表情を見て短時間の午睡が出来るようその時々で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察記録と処方箋をスタッフ全員で確認するようにしており、処方内容に変更があったり注意点については主治医や薬剤師から指示を受けたり、こちらから確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ得意とする事や好きな事が異なる為、曜日毎にクラブを開きゲームや合唱、裁縫・手芸などに自由に参加して頂いている。昔から得意として教室を開いていた方には指導役になって頂き行事の1つとして物作りに取り組んだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への外出を希望される方にご家族へ同意を得て同行したり、外出付き添いをご家族へ依頼する事もあります。また、こちらから声を掛けて近隣の散歩に誘い出掛けています。行事の1つとして普段から皆さんの希望を伺い、その場所へドライブをしたり外食をしています。	日々の暮らしが単調にならないよう、買い物や近隣の公園に散歩に出かけ、四季折々の草花で五感を刺激しています。地域の神社祭では、子供神輿で子供と触れ合い、夏祭りには、2日間で全員が参加する取り組みやドライブ、外食、花見など、家族の協力も得ながら外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失した場合を考えあまり大きい金額にならないようご家族と相談し、ご自分のお小遣いとして財布をお持ちの方もいます。それ以外は金庫でお預かりし必要な時や希望があった時にはお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には電話を掛けるお手伝いをしたり、手紙やハガキを書くお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に戸惑う方も居る為、音の調節をしたり時間を決めて消す事もしている。季節毎にスタッフも交え貼り絵や塗り絵を共同で作成し壁に貼って楽しんだり、桃の節句や十五夜など季節のお供えや飾りをしている。	共用スペースには、利用者の作品や外出時の思い出の写真が飾られ、家庭的で落ち着いた雰囲気になっています。事務所の前には、ゆったりしたソファが2ヵ所配置され、利用者同士がトランプを楽しんだり、横になったり、それぞれお気に入りの場所で過ごすことが出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーの空間を利用して自由に過ごせる環境がある。また、リビングでは気の合う方同士がトランプをして楽しんだり、ゆったりソファで寛いだりその方にあった居場所が提供されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使用していた家具を持ち込んで頂き落ち着いて過ごせる環境を提案している。ご本人の暮らしを見ながら家具の配置を考えたりしている。お仏壇のある方にはお経やお花を挙げやすいような配置等を考慮しご本人と相談しながら整備している。	利用者は、自宅で使用していたソファやタンス、テレビ、仏壇などを自由に持ち込み、職員は、利用者と相談しながら環境を整えています。家族の写真を身近に置いたり、仏壇に花を添えるなど、居心地良く安心して過ごせる場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を回避しながら自力で移動が出来る事を優先して家具の配置を考えたり、トイレの場所を示す目印を付けたり必要な場所に手すりの取り付けを新たに行なっている。		